# 野田市の郷土史研究誌を頒布

## ～『野田市史研究』第 33 号を刊行～

野田市史編さん委員会（委員長＝鈴木有 野田市長）は、市史編さん事業の最新成果を郷土史研究誌『野田市史研究』（第 33 号）として刊行、100 部を希望者に 230 円で頒布中。

**◆『野田市史研究』（第 33 号）**

【収録内容】口絵写真　鈴木貫太郎記念館所蔵
**鈴木貫太郎一行書**（掛軸）**『天空海闊』**（てんくうかいかつ）
巻頭雑感**「関宿周辺の和算文化」**
米谷　博　（千葉県立関宿城博物館 前館長）
補　　遺**「『野田市史 資料編 古代･中世 1』補遺２」**
野田市史編さん委員会　古代･中世部会
研究論文**「常武電気鉄道（久喜筑波鉄道）の計画と挫折」**
坂口　誠　（野田市史編さん委員会 専門委員）
研究論文**「野田市の誕生と川間、福田両村の編入･合併」**
栗田尚弥　（野田市史編さん委員会･専門委員）

・**鈴木貫太郎一行書『天空海闊』**（てんくうかいかつ）は、、広々とした空や海の様なおおらかな様子を示す鈴木座右の銘。戦争終結に反対する者が８月 15 日未明、首相官邸や都内の自宅を襲撃。専属運転手 柄沢好三郎の運転で危うく難を逃れた鈴木が柄沢に贈り、御遺族から鈴木貫太郎記念館に寄贈されたものである。

・**「『野田市史 資料編 古代･中世 1』補遺２」**は、資料集の刊行（平成 22 年）以降に発見された史料、その後の研究の進展により判明した事実などから、下河辺荘・相馬御厨及び野田市域に関する史料など 19 点を掲載した。

・**「常武電気鉄道（久喜筑波鉄道）の計画と挫折」**は、埼玉県の久喜から現野田市域の関宿を結ぶ一般旅客貨物鉄道として計画された「常武電気鉄道」について、国立公文書館の『鉄道省文書』から、大正末期の「常武電気鉄道敷設免許申請書」などを用いた論考。一時は「地方交通ノ利便ハ勿論産業ノ開発上有利ノ事業」として免許されながらも、昭和の金融恐慌などの影響を受けて、幻の鉄道となった。

・**「野田市の誕生と川間、福田両村が合併・編入」**は、野田市が市制を施行した昭和二十五年五月三日の野田町・旭村・梅郷村の一町三村合併と、昭和三十二年四月一日の川間村・福田村の二村編入合併を取上げ、その推移を知ることが出来る史料から、現在の野田市へと続く変遷をたどるもの。

【体　　裁】Ａ５版、並製本、全 86 ページ
【頒布価格・部数】　230 円（税込）、100 部
【頒布場所】市役所２階･市史編さん担当、市内各図書館、郷土博物館

問合せ＝総務部 市史編さん担当　　直通 04-7125-7802
代表 04-7125-1111（内線 3220）

**野　田　市**